

「授業構想力評価スタンダード（理科）」

観点 \ 段階	段 階 1	段 階 2	段 階 3
A. 授業構想力			
1. 学習者の把握			
1) 学習者の実態把握	学習者の学習に対する姿勢をクラス全体として把握している。	個々の学習者の実態（学習意欲、関心、興味、知識や理解度など）を把握しながら、指導・支援で配慮している。	クラス全体や個々の学習者の実態を考慮し、効果的な学習方法、教材などを検討し授業構成に配慮している。
2) 学習への構え・ルールづくり	授業の中および前後において、学習者に授業のための心構えや取り組む姿勢について助言・指導をしている。	より効果的な学習活動が展開できるような目標を明確にすると共に、目標達成のための学習環境を作ることに努力している。	クラス全体や個々の学習者の実態を考慮しながら、効果的な学習活動を展開するために支援している。さらに学習者自身に自発的に良好な学習環境をつくることのできるよう支援している。
2. 目標の分類と設定	学習目標を各観点(意欲・関心・態度、科学的思考、技術・技能、知識・理解)から設定している。	学習目標を各観点(意欲・関心・態度、科学的思考、技術・技能、知識・理解)から設定し、さらに具体的な授業展開を通じて検証できるような段階に達している。	学習目標を各観点（意欲・関心・態度、科学的思考、技術・技能、知識・理解）から設定し、実際に活用できる観点別評価基準として設定できる段階に達している。
3. 授業構成			
1) 教育内容の構成	学習指導要領や教科書をよく理解した上で各単元の学習内容を構成している。	各単元の学習内容をよく把握しながら、学習者の実態を考慮した学習内容を構成している。	各単元の学習内容だけでなく単元ごとのつながりをも重視し、体系づけて構成している。さらに学習者の実態に応じて学習内容の構成を行っている。
2) 教材(題材)の選択・構成	学習内容に適した教材を工夫し、選択・構成している。	学習者の実態を考慮しながら、学習内容に適した教材を工夫・改良し、選択・構成している。	学習者が問題を発見できたり、あるいは多面的な見方や考え方ができたりするような、より総合的な科学的思考を養う教材を選択・構成している。
3) 授業過程の組織	明確な授業目標にしたがって、導入、展開、まとめの明確な流れがある授業過程を組織している。	明確な授業目標をふまえながら、さらに学習者の知識や理解の深化を支援する授業過程を組織している。	学習者の知識や理解の深化を支援しながら、さらに学習者の主体的な探究活動や問題解決活動を考慮した授業過程を組織している。
4) 学習法・学習形態の選択・組織	学習内容や目標に適した学習形態を選択・組織している。	学習内容や目標に適した学習形態を選択・組織し、さらに具体的な授業展開を通じて検証できるような段階に達している。	学習内容や目標に適した学習形態を選択・組織でき、さらに学習者が主体的に学習できるように臨機応変に学習形態を変更・改良できる段階に達している。

観点 \ 段階	段 階 1	段 階 2	段 階 3
4. 単元計画 (授業計画)			
1) 単元 (授業) 計画の作成	単元の目標が達成できるように主題と時間数を割り振っている。	各単元の目標が達成できるように、さらに学習者の知識・理解が体系化できるように単元計画を構成できる段階に達している。	学習者の知識・理解が体系化されるばかりでなく、学習者自ら探究的に学習できるような単元計画を構成できる段階に達している。
2) 学習指導案 の作成	学習指導案の一般的な形式を理解し、単元目標に応じて学習指導案を作成している。	学習指導案の一般的な形式を理解し、単元目標に応じて学習指導案を作成し、具体的な授業展開を通じて検証できるような段階に達している。	科学的思考を養うために、学習者の実態や学習活動にあわせて、適した学習指導案を作成し、実践できる段階に達している。
3) 学習評価計画 の作成	各観点 (意欲・関心・態度、科学的思考、技術・技能、知識・理解) から評価計画を作成している。	学年、学期、単元を考慮して、観点別の評価計画を作成し、具体的な授業展開を通じて検証できるような段階に達している。	学年、学期、単元を考慮して、観点別の評価計画を作成し、評価後、学習者にフィードバックする工夫を行う、また授業者が授業改善の目安にする段階に達している。